

ジヨルジュ・クウルトリイヌに就いて

岸田國士

青空文庫

劇作家としてのクウルトリイ又は、既にその仕事ををはつてゐるやうに思はれる。しかしながら今日までに彼がなし遂げた業績は、仏蘭西戯曲史上重要な頁を占めるべきものであらう。

一千八百六十年六月二十五日、仏国中部の古都ツウルに生れ、モオの高等学校で普通学を修めた。父親は、名をジユウル、姓をムアノオと称してゐたのであるから、彼も亦ジヨルジユ・ムアノオといふ本名があるに違ひない。彼が青年時代を如何に過したかは、今私の手許にある文献だけではわからないが、臃げな記憶に従へば、彼は書齋よりもカツフェーを愛したらしい、但しそのカツフェーは、彼をして様々な近代人のタイプを研究させる事に役

立つたといはれてゐる。

一千八百九十一年六月、自由劇場でその処女作「リドワル」が上演せられ、同じく九十三年四月、傑作「ブウブウロシユ」が空前の成功裡に最後の幕を閉ぢて以来、クウルトリイヌの名は突如として巴里劇壇の注意を惹いた。それにも拘らず、当時の頑冥な批評家（多分サルセエだと思ふ。何故なら此の「批評壇の明星」は、当時屢々斯くの如き態度をもつて新進作家を遇してゐる）は彼の戯曲を評して「脚本になつてゐない脚本」と嘲り、又「些かも芝居のコツを心得てゐない代物しろもの」と片付けてゐる。

實際彼の作品は、多くは「劇的スケッチ」とも称すべきもので、所謂作劇術の定石を無視した「人生の断片」であり、何よりも先

づ「生きた人間」を描くことによつてのみ、舞台の「動き」を与へようとする自由劇場式戯曲である。そして、それはまた同時に、仏国近代劇の著しい転向を物語るものである。

ラシイヌによつて始められた心理解剖劇の伝統が、ポルト・リシュに至つて近代的色彩を与へられたとすれば、モリエールが開拓した伝統の一面、チナミスム（動性）を基調とする諷刺喜劇の流れは、クウルトリイヌによつて、近代的ファルスの典型を示した。

彼は、モリエールの如く、性格的「タイプ型」を創造することはできなかつたが、現代社会を形づくる階級的乃至職業的「タイプ型」をとらへて、微細な観察を下し、之を特殊な「境遇」の中に投げ込み、

一種のグロテスクな、同時に涙ぐましい笑ひを引き出す手腕をもつてゐる。深刻な人生批評とまでは行かないが、犀利にして軽妙な性格描写の筆は最もよく、社会の戯画的諷刺に成功した。

彼は、仏蘭西人特有のあらゆる感情のニュアンス、巴里生活のあらゆる機微な問題と、そのゴオル人らしいエスプリ機智と、ジエネロチテ寛大さを以て傍觀し、いくらかのペシミスムと、あり余る皮肉とを、洒脱なファンテヂイに託して、冷たい花びらの如く、人の頭上に振りまくのである。

彼の数多い作品中には、相当「一夜漬け」があるにはあるが、此処に掲げた二篇のみ、前掲、「ブウブウロシユ」「真面目な花客」「殴られる心配」等は傑作の部に属すべきであらう。

彼は、その旧友や後輩たちが、続々アカデミー入りをするのを平気で眺めてゐる。そして、彼にも、亦、その花々しい経歴を背負つて、立候補すべきを勧めるものがあると、彼は笑つて、「競争者がなければ……」と答へてゐるさうである。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集20」岩波書店

1990（平成2）年3月8日発行

底本の親本：「近代劇全集第十七卷」第一書房

1928（昭和3）年1月10日発行

初出：「近代劇全集第十七卷」第一書房

1928（昭和3）年1月10日発行

入力：tatsuki

校正：門田裕志、小林繁雄

2006年2月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ジヨルジュ・クウルトリエヌに就いて

岸田國士

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>